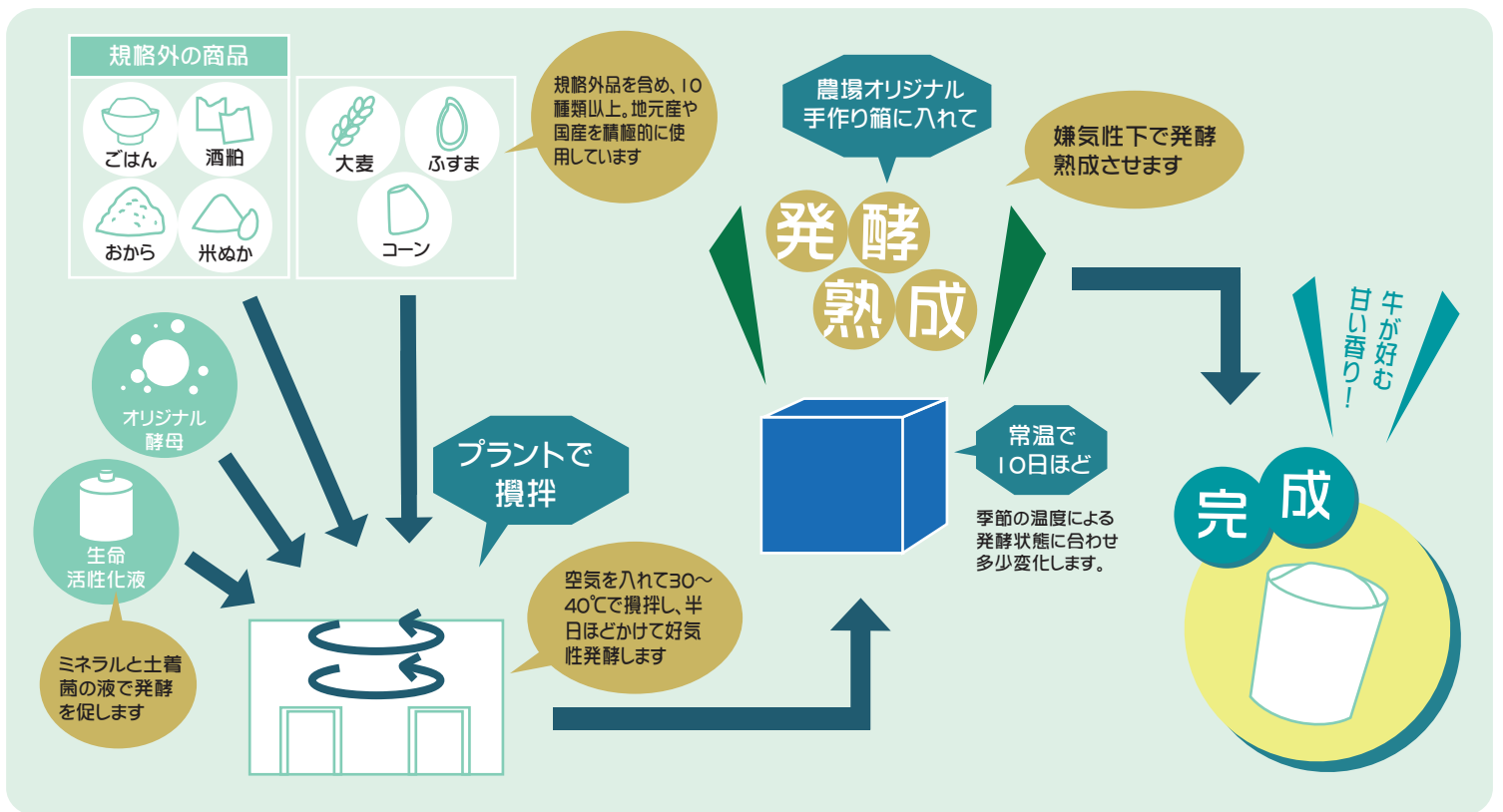




福島に
この酵母
和牛がいて
よかつた
と思える、
餌づくり、
飼育方法、
味への挑戦。

あだたら高原酵母和牛の発酵飼料が出来るまで



國分農場では約20年前から環境に配慮した飼育をしています



食品残渣を畜産飼料にリサイクルすることを「エコフィード」と呼び、最近注目されています。國分農場では独自のリサイクルシステムを平成12年に開発。地元の酒粕などのエコフィードで酵母発酵飼料を作り、黒毛和牛の餌にすることで牛の胃腸にも環境にも優しい仕組みづくりに取り組んでいます。

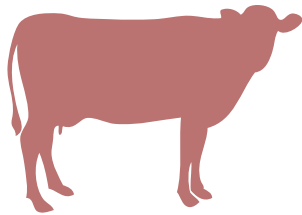
酵母発酵飼料が牛に良い理由

牛の胃袋は4つあります。第一胃、第二胃、第三胃、第四胃と呼ばれ、人間の胃に一番近い役割は第四胃です。その前の胃は牛が大量に食べる草や餌を胃の中にある微生物たちが分解したり、反芻したりする役割があり、食物繊維を消化しやすくしています。

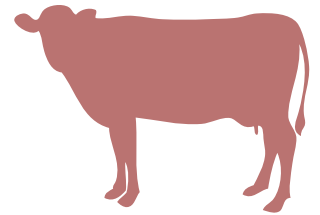
酵母発酵飼料はこの分解作業がしやすい餌であり、第四胃での吸収を促すのです。胃の調子が良ければ牛もたくさん食べることが出来て大きく育ちます。

牛にとってはスムーズに食べられることがとても大事なのです。





あだたら高原 酵母和牛の 肥育方法

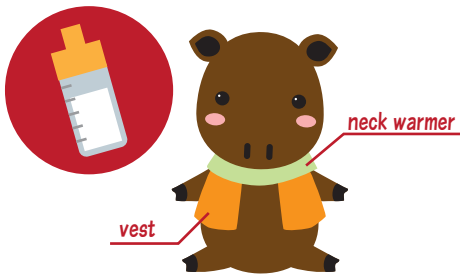


國分農場では赤ちゃん仔牛から肥育しています

一般的な畜産農家は生後8ヵ月ほどまで繁殖農家で育った仔牛を購入し、草や配合飼料を与えます。國分農場ではもっと赤ちゃんの2ヵ月くらいの仔牛から育てています。ミルクの頃から農場に慣れることで環境ストレスを軽減。餌もミルクから配合飼料への切り替える離乳期を見極めながら行い食ストレスを軽減。少しの変化で食が細くなってしまう牛たちを考えて、手間はかかりますが仔牛からの飼育を続けています。

2~3.5ヵ月 (ミルク期)

牛も風邪をひいちゃう

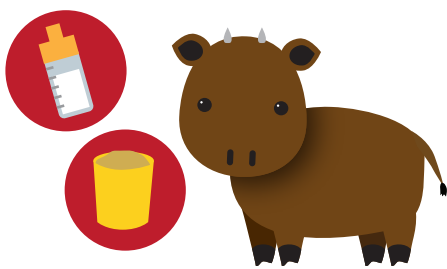


このころの仔牛の「胃のしわ」は全体の70%を占めており、母乳でしか育ちません。体温調整もまだ上手くできない時期で風邪をひきやすいので注意が必要です。風邪をひくと熱を出し、お腹をこわし、食べられなくて元気がなくなります。國分農場では1頭1頭の部屋を作り、毎日様子を見て環境を整えています。寒い日には風邪予防にベストを着せたり、ネックウォーマーで首を温めたり、大忙し。人間の赤ちゃんと同じくらい手間がかかります。

体重は約50kg → 130kgほどへ

3.5~12ヵ月 (ミルクと酵母発酵飼料)

味にちょっとうるさいです

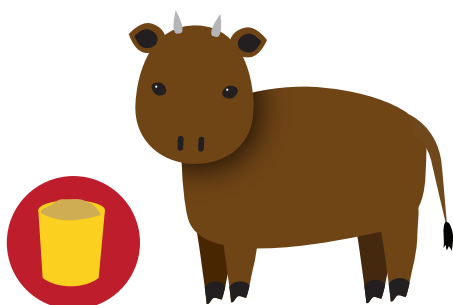


このころは仔牛のミルクを減らし、草と餌に切り替えて胃袋を作る大事な離乳期。急に餌を与えても食べないので、数種類の草を組み合わせながら発酵飼料（餌）に少しずつ慣れさせます。ところが牛には「草の噛み応え」や「香り」「歯ざわり」「草の長さ」など1頭1頭のお好みがあり、気に入らないと食べてくれません。國分農場では、酵母発酵飼料の甘い香りで食欲をそそるようにしていますが、1頭ごとのお好みに合わせる気配りが欠かせません。

体重は約130kg → 500kgほどへ

12~25ヵ月 (酵母発酵飼料)

快適空間じゃないとストレス感じます



すっかり餌にも慣れ、このころは草を8割、発酵飼料を2割で育てています。牛の体もどんどん大きくなるのですが、牛は狭いとストレスで他の牛とケンカしたり、水がきれいじゃないと飲まなかったり等、快適空間にとっても敏感。ゴロンと横になるスペースもほしいのです。國分農場では高原地帯の風の通りを活かし、掃除も手を抜かず、牛のために毎日環境を整えます。そのおかげで内臓まで健康な牛が多く、酵母和牛として胸をはって名乗れます。

体重は約500kg → 900kgほどへ